

シートベルトを正しく着ける

後席シートベルトにおいても正しく着用してはじめて安全を守ってくれます。せつかく着用するシートベルト、正しく使いましょう。

POINT

肩ベルトは鎖骨・胸骨

肩ベルトは、鎖骨から胸骨を通るように着用します。肩からずり落ちたり、首にかかったりしないように注意しましょう。シートベルトの高さ調整ができる場合は、鎖骨と胸骨を通過する位置に合わせます。

POINT

腰ベルトは左右の腰骨

腰ベルトは、左右の腰骨を押さえるように着用します。ベルトをかけたら、肩ベルトを引き上げて腰ベルトのたるみをとります。正しく着用すると、腰ベルトはズボンのベルトよりやや下を通過します。

シートベルトの正しいかけ方



シートベルトは骨格部にかけます。○がシートベルトをかける鎖骨、胸骨、左右の腰骨の位置です。

浅く座るとベルトが腰にかからない



肩ベルトが首を絞める

肩ベルトが首に迫っています。この状態で衝突したら、前のめりになる勢いで首が絞められてしまいます。

腰ベルトが腹部に当たっている

腰ベルトが腰骨を外れて腹部にかかっています。腹部には体重の30倍もの力を支える強度はありません。

車内を整理整頓する

車内に荷物などが置いてあると危険です。安全を確保するには、ここまで注意を払いましょう。

荷物室へ収納



荷物室にきちんと収納して、車内の整理整頓を心がけましょう。箱などを使うと荷物も安定し、すっきりと整理できます。

荷物が飛び込んでくる

荷物が後席に雑然と積み込まれています。衝突時、これらは凶器となって前席に飛び込んでくる恐れがあります。

荷物が散らかった危険な後席



衝突実験は次の条件で行いました

【シートベルトの状態】

後席シートベルト着用の場合と非着用の場合とを同条件で比較するために、同車種の3列シートのミニバンを2台用意しました。運転席、2列目シートの右側、3列目シートの右側という具合に、車の右側の座席にダミーを搭載し、運転席のダミーにはシートベルトを着用させます。「後席シートベルト着用」のテストでは2列目、3列目のダミーにもシートベルトを着用させ、「後席シートベルト非着用」は運転席を除く2列目、3列目のダミーのシートベルトを非着用としました。

【衝突形態】

フルラップテストと呼ばれる、車の前面全体をコンク

リートバリア(壁)にぶつける方法です。衝突速度は時速50kmです。

【ダミー】

ハイブリッドIIIという米国製のダミーを使用しました。運転席には平均的な男性サイズ(体重78kg)のダミーを用い、2、3列目シートには小柄な女性サイズ(体重50kg)のダミーを用いました。

【テスト車の状態】

2台の車は、撮影の便宜上、右側のドアを外して補強パイプを装着、屋根もほぼ全体を切り取りました。左側のシートは背もたれを外し、助手席エアバッグも開かないようになっています。

発行/社団法人日本自動車連盟(JAF)
監修/警察庁

問い合わせ先

本部公益事業部	03-3578-4915
北海道	011-857-7155
東北	022-783-2820
関東	03-5976-9767
中部	052-872-3867
関西	072-645-1300
中国	082-272-0323
四国	087-867-8411
九州	092-841-7731

http://www.jaf.or.jp/

©JAF MATE社

2003年3月 1版2刷

表紙の写真は駐車中の車内を撮影したものです。

どうする？
車内の安全



JAF Traffic Safety Report

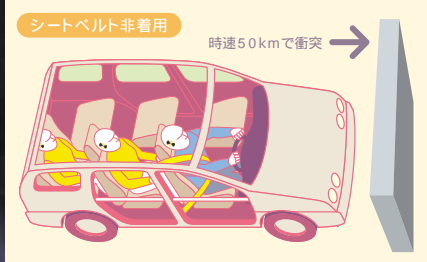
ジャフ・トラフィック・セーフティレポート

乗ったらしめる、
後席シートベルトも。
後席の人がシートベルトをしていない車内には、2つの危険が潜んでいます。衝突実験で確かめてみました。

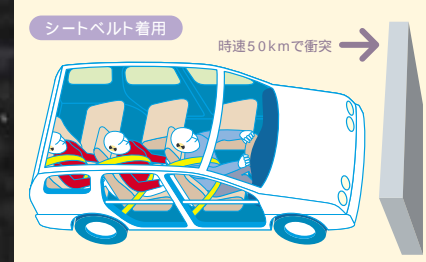


後席シートベルト非着用

写真の実験車両は、撮影のため屋根を切り取っているため、後席のダミーが飛び出しています。



後席シートベルト着用



衝突実験で見られた

2つの危険

1. シートベルト非着用の後席のダミーは、車内で全身を強打した
2. 前席のダミーは、後席のダミーの前席背もたれへの激突に伴い危害を受けた

後部の座席は、前席より安全なイメージがある。確かに、目の前がフロントガラスの前席とは違って、後席の前にあるのは一見柔らかそうなシートの背もたれだ。だからといって、後席は本当に安全といえるのだろうか。

そこで、実際に車を壁にぶつける「衝突実験」を行い調べてみた。座席には人間の代わりに、ダミーと呼ばれる衝突実験用の人形を座らせた。

「後席シートベルト非着用」の場合、シートベルトをしていない後席のダミーは、衝突の勢いで座席から投げ出された。実験に使った車は撮影用に天井を切り取っているため、後席のダミーが屋根から飛び出した。実際の衝突なら天井に体を強打したことになる。後席シートベルトをしていないために発生する「2つの危険」

ハイスピードカメラによる衝突後の車内



「後席シートベルト非着用」では、ダミーは着座姿勢のまま飛び出し、前のシートに体を強打。前席のドライバーは、エアバッグと背もたれに挟み込まれた。「後席シートベルト着用」のダミーは飛び出すことはなかった。

うちの1つめは、後席乗員自身が座席・天井等に叩きつけられる危険である。

さらに、後席のダミーが前席の背もたれに体全体で突っ込んだため、ドライバーである前席のダミーは、シートベルトを着用していたにもかかわらず、エアバッグと背もたれに強く挟まれてしまった。2つめの危険は、このようにシートベルトとエアバッグに守られるはずだったドライバーをも危険な状況に巻き込んでしまうことである。

実際、この実験のような条件では、ダミーは体重の約30倍の力で前に飛び出すとされている。飛び出した後席のダミーは体重50kgだから、およそ1.5tの力でドライバーの背もたれに体当たりした計算だ。

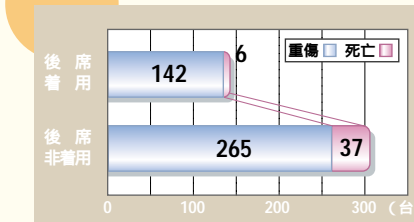
後席乗員がシートベルトをしていないと、車内は2つの危険を抱えてしまう。前席乗員と同様にシートベルトの着用が必要である。

現実の事故はどうか？

現実の事故でも、シートベルトをしていない後席の人は、前席の乗員に危害を加えている。下記のグラフは、交通事故関与台数1万台あたりのドライバーの死亡・重傷台数が、後席シートベルトの着用状態によってどのように変わるかを示したものだ。それを見ると、後席シートベルトが非着用だと、ドライバーの死亡・重傷台数は倍以上に増えている。非着用時には、死亡の割合も高い。データではこの傾向は、助手席乗員についても変わらない。

前席乗員は、衝突そのものによるダメージだけでなく、シートベルトをしていない後席乗員の前席背もたれへの激突に伴うダメージも受けている。この二重のダメージで、より多くの前席乗員が死亡・重傷に至っているのである。

後席でシートベルトをしていないとドライバーの死亡・重傷はこれだけ増える！



出典：交通事故総合分析センター「イタルダ」イタルダインフォメーションNo. 27 2000 後席シートベルト後席乗員のシートベルト非着用が前席乗員に及ぼす影響」

このグラフは、交通事故関与1万台あたりの前席乗員の死亡・重傷者台数（前面衝突事故に限る）を、後席シートベルト着用・非着用別に表したものである。ドライバーはシートベルトを着用している。

